

お願い

この商品には保証書があります。保証書は当資料と同封されておりますので、施工後、必要事項を記入の上、必ず設置者にお渡しください。

施工説明書

クボタ浄化槽

HSⅡ型、KXF型

目 次

1. 施工上のご注意	2	5. 特殊施工、オプション施工	10
2. 仕様一覧〔本槽・ブロワ〕	4	5-1 深埋め工事	10
2-1 浄化槽・仕様一覧表	4	5-2 駐車場に設置する場合	10
2-2 ブロワ仕様表	5	5-3 水場に設置する場合	11
3. 設置工事	5	5-4 特殊な荷重がかかる場合	12
3-1 設置前の確認事項	5	5-5 臭突配管工事	12
3-2 土工事	5	5-6 寒冷地に設置する場合	13
3-3 据付工事、水張り	6	5-7 ランドセル型排水ポンプ槽付き浄化槽 を設置する場合	13
3-4 埋戻し工事	6	5-8 ランドセル型排水ポンプ槽付きを施工 する場合の注意点	14
3-5 配管工事	6	6. アフターサービスについて	16
3-6 ブロワ据付工事	6	6-1 保証期間と保証の範囲	16
3-7 電気工事	7	6-2 保証体制	16
3-8 スラブコンクリート工事	7		
4. 試運転	7		
4-1 工事内容の確認	7		
4-2 試運転	7		

この度はクボタ浄化槽をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
この施工説明書をよく読んでから、施工に取りかかってください。
ようお願いいたします。



注意

施工説明書の本文に出てくる警告、注意表示の部分は浄化槽を設置する前に必ずお読みになりよく理解してください。

1. 施工上のご注意

浄化槽工事にあたっては、この施工説明書の中に記載されている警告表示・注意表示事項などをよく読み、くれぐれも安全を心がけてください。絵表示は、それぞれ次のような意味を表しています。

●絵表示について

 警告	この表示を無視して誤った取扱をすると、人が死亡又は重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取扱をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

警告

感電・発火事故防止

- ① アースが必要なブロワ・ポンプ・制御盤などの電気機器は、必ずアース工事をして下さい。
- ② ブロワの電源にコンセントを使用する場合は、防水型コンセントをご使用下さい。
- ③ ブロワ、ポンプ・制御盤などの電気機器の工事は、電気工事士の資格を持つ専門業者に依頼して下さい。

これらの注意を怠ると感電発火の生ずるおそれがあります。

注意

マンホール・点検口などからの転落・傷害事故防止

- ① マンホールフタは、積載荷重に応じて適正なものを使用してください。
- ② 工事中は、必要なとき以外はマンホール・点検口などの蓋を必ず閉めて下さい。
- ③ マンホール・点検口などのひび割れ・破損などを発見したら、直ちに取り替えて下さい。

これらの注意を怠ると転落・傷害の生ずるおそれがあります。

傷害事故防止

- ① 槽の吊り上げ・据付は、玉掛け作業でおこなって下さい。
- ② 槽の下には立ち入らないで下さい。
- ③ 適正な吊り角度で必ず4点吊りとしてください。
- ④ 槽の据付け時には、落下や衝撃を与えないよう注意してください。

このような注意を怠ると傷害事故の生ずるおそれがあります。

転落事故防止

- ① 据付後の水張り、浮上防止金具の取付作業は足場板などで養生しておこなって下さい。
- ② 埋設工事に際して、穴を掘った周囲には、防護柵をつくり関係者以外立ち入らないようにして下さい。

この注意を怠ると、転落事故(傷害)の生ずるおそれがあります。

消毒剤による器物破損事故防止

- ① 消毒剤は浄化槽を使用開始するまで開封しないでください。
- ② 消毒剤を開封する前に浄化槽へ流入する排水元の設備・機器（トイレ、浴室、洗面台、台所など）のトラップが切れていないことを確認してください。

これらの注意を怠ると消毒剤から発生する塩素ガスによって設備・機器が腐食し、器物破損・傷害事故の生じるおそれがあります。

浄化槽工事は、工事現場で浄化槽設備士が指導してください。

留意事項

1. 浄化槽の設置届けを確認して下さい。
2. 施工要領書・工事仕様書、浄化槽工事の技術上の基準などの諸法令を確実に守って工事して下さい。
工事が不完全な場合は槽の破損による汚水漏れ・放流水質の悪化などの原因になります。
3. 排水ポンプ槽を設ける場合は、必ず臭突を設けてください。
4. 電気工事は、必ず電気工事士の資格を持つ専門業者に依頼してください。
5. ブロワを設置する場所は、通気・防湿・騒音に配慮して下さい。
振動防止のために、基礎はコンクリート製とし、ブロワ自体の重量や振動に耐えるものとして下さい。
据付コンクリートの基礎は、建築物と直接繋げることなく、地盤(GL)より 10cm 以上高くしブロワ台の外寸より 5cm 大きくして下さい。
6. 工事は浄化槽工事の技術上の基準を守り、特に、基礎工事、埋め戻し工事、上部スラブ打設などは、施工要領書に基づき正しく行って下さい。
また、駐車場・車庫にする場合、交通量の多い道路際に設置する場合、近くの建築物の荷重が槽本体に影響する場合、軟弱地盤に施工する場合、多雪地帯に設置する場合などは特殊工事になりますので、槽本体に影響を及ぼさないように補強工事を行って下さい。
7. 浄化槽を破損しないように埋め戻しには次のような事項に注意し作業して下さい。
 - 1) 水張り後に、埋め戻し作業を行うこと
 - 2) 埋め戻しの土は、石ころなどが混入しない良質土を用いること
 - 3) 埋め戻し時に重機のバケットなどを槽に当てたり、高いところから埋め戻しの土を落とさないこと
8. 浄化槽設置工事に伴う残土・残材は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」で産業廃棄物となりますので、その規定にしたがって処理して下さい。
9. 設置工事完了後は、施工チェックリストで確認して下さい。
10. 使用者に、浄化槽の保守点検業者との維持管理契約をするよう指導して下さい。
11. 取扱説明書・保証書等を施主に手渡すときは必ず受領書を受け取り保管して下さい。
12. 「取扱説明書など」が使用者に渡っていないときは、弊社に連絡するようお願い下さい。さっそく郵送いたします。
13. 浄化槽の設置工事に関して不詳な点は弊社窓口にお問い合わせ下さい。
(p-20 営業所一覧をご覧ください)

2. 仕様一覧 [本槽・ブロワ]

2-1 浄化槽・仕様一覧表

型 式		HSⅡ-5	HSⅡ-7	HSⅡ-10	KXF-5	KXF-7	KXF-10
寸 法	幅 W	1,160	1,340	1,560	1,160	1,340	1,560
	長さ L	2,500	2,950	3,630	2,500	2,950	3,630
	高さ H	1,780 ^{*1}		1,860	1,780 ^{*1}		1,860
	流入管底 a	250			250		
	放流管底 b	400			350		
	管 径 φ	100			100		
ブロワ		TIP-60	TIP-80	TIP-120	TIP-80	TIP-120	HP-150
総容量 (m ³)		3.014	4.352	6.329	2.871 ^{*2}	4.136 ^{*2}	5.982 ^{*2}
概算重量 (kg)		250	320	380	310	400	520

ブロワは仕様により変わる場合があります。

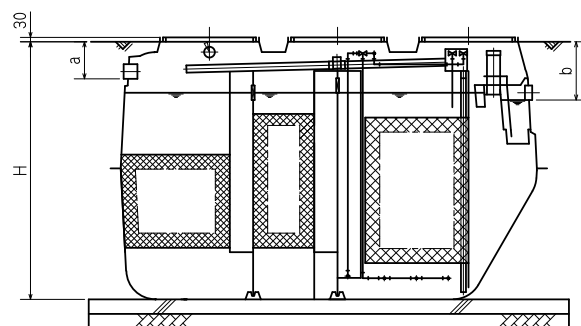
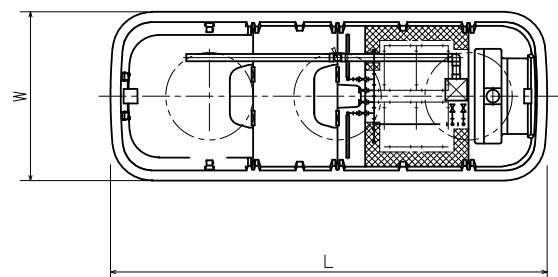
※ 1 寸法は肉厚を含んだ寸法（外寸）です。

※ 2 M.W.L 時の容量。

・ K X F 型には標準で切替BOXが付属します。

注 意

- 表中の寸法にはマンホール厚 30mm は含まれていません。
- 実際の配管工事は 20mm 程度の余裕を持って行ってください。
- ブロワは仕様により異なる場合があります。



2-2ブロワ仕様表

ブロワ 型式	風量 (L/min) (50/60Hz)	吐出 圧力 (kPa)	呼び 口径 (A)	電圧 (V)	消費 電力	適用浄化槽
					(W) (50/60Hz)	
TIP-60	60	14.7	13	100	32/32	HSⅡ-5
TIP-80	80				48/48	HSⅡ-7
TIP-120	120				75/75	HSⅡ-10
TIP-80	80	14.7			48/48	KXF-5
TIP-120	120	18.0			75/75	KXF-7
HP-150	150	20.0			125/155	KXF-10

ブロワは仕様により異なる場合があります。

3. 設置工事

3-1 設置前の確認事項

工事を行うための次の条件を確認してください。

- ・ 設置場所の広さ……………設置通りの広さがあるか。
- ・ 配管経路の状況……………浄化槽の配管経路に障害物はないか。
- ・ 搬入、搬出路の状況……………浄化槽の持ち込みができるか。
- ・ 設置場所周囲の状況……………資材置場、工事車両、残土一時置場があるか。
- ・ 土質の良否および湧水の有無……………現場で電気、工事用水が調達できるか。
- ・ 放流の方法……………自然放流かポンプアップ放流か。
- ・ 浄化槽および付属品は整っているか。
- ・ 浄化槽の施工の際は現場毎に標識を掲げること。

3-2 土工事

① 掘削工事

- ・ 深さ 2m 以上の掘削作業は作業主任者指揮のもと掘削深さと土質に応じた適切なのり面勾配を確保し、安全な作業を行ってください。
- ・ 安全に作業できるスペースを見込んで掘削を行ってください。
- ・ 既設の建築物が近くにある場合、地下水位が高い場合など地山崩壊のおそれがある場合は山留めを行ってください。

② 基礎工事

- ・ 基礎などの厚さは、地耐力および浮上防止を考慮して決定するものとし、原則として右表によりますが、施工仕様がある場合はこれに従ってください。

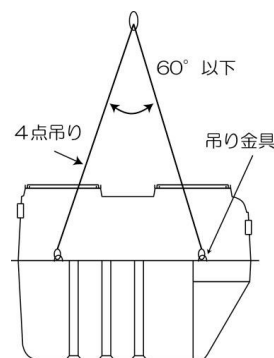
基礎などの厚さ

単位：mm

種 別		処理種別 小規模合併処理 50 人以下
切込み砂利 又は切込み碎石		100 以上
均しコンクリート		50 以上
鉄 筋 コンクリート	コンクリート厚さ	150 以上
	配 筋	D10-@200(ツグル)

3-3 据付工事、水張り

- ・ 移動式クレーンの運転、玉掛作業は有資格者が行ってください。
- ・ つり込み、吊り降ろしは、必ず4点吊りとし、重心に注意しバランスをとってください。
- ・ 浄化槽をベースコンクリートの所定の位置に降ろすときは、流入管、放流管の方向およびコンクリート上に異物がないことを確認してください。
- ・ 必ず槽は水平に設置してください。
- ・ 所定の水位（水位目安線）まで水張りを行い、水平および漏水の有無の確認してください。
- ・ KXF型の水張りの際は担体が他の槽に散乱しないよう注意してください。



ワイヤーロープのかけ方

3-4 埋戻し工事

- ・ 埋戻しの際は、本体の開口部から土砂が入らないようにしてください。
- ・ 埋戻しの土は、石などが混入しない良質土を用い、周囲を均等にすき間ができないよう水締め、突き固めなどを行ってください。
- ・ かさ上げを必要とする場合は、最大 30cm 以内とってください。

3-5 配管工事

- ・ 材料はJIS規格品とし、流入・流出管用にはVUまたはVP管を、送気管用にはVP管を用いてください。
- ・ 配管勾配は管径分の1以上とし、逆勾配にならないよう注意してください。
- ・ 起点、屈曲点、合流点には適切なマス进行を設けてください。
- ・ 流入側のマスは全てインバートマスとしてください。
- ・ 使用しない空気配管接続口のキャップは必ず糊付けしてください。
- ・ 空気配管の際は、配管の誤接合に注意してください。
- ・ 風通しが悪く、臭気のこもりやすい場所に設置する場合や排水ポンプ槽を設ける場合は臭気、通気対策として臭突を設置してください。（p-12 臭突配管工事参照）
- ・ 臭突管には汚水の配管を絶対に接続しないでください。
- ・ 浄化槽配管には雨水や工場排水は接続しないでください。

3-6 ブロワ据付工事

設置場所

- ・ 保守点検が容易にできる場所
- ・ 寝室、書斎、居間などからできるだけ離れた場所
- ・ 日陰で風通しがよい場所
- ・ できるだけ浄化槽に近い場所
- ・ 浄化槽の水面より高く冠水のおそれがない場所
- ・ 湿気を受けたり、雪に埋もれたりしない場所
- ・ 近くに可燃物や危険物が無い（置くことのない）場所

据付ベース

- ・ 据付ベースはコンクリート製とし、ブロワの重量や振動に耐えるものとしてください。
- ・ ベースコンクリートは建築物の基礎や壁面と繋げることなく、地盤(GL)より 10cm 以上高くし、かつブロワ台の外寸より 5cm 大きく施工してください。

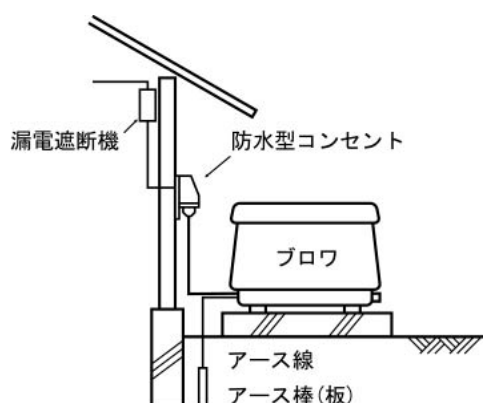
接 続

- ・ ブロワと送気管との接続は付属の接続用ゴムエルボでブロワの吐出口と送気管を接続し、ホースバンドで止めてください。

※切替BOXおよびコントロールボックスのある機種（KXF型）については取扱説明書を参照下さい。

3-7 電気工事

- ・ 電気配線工事は電気工事士の資格を持つ専門業者にお願いしてください。
- ・ 電源（単相 100V）は浄化槽専用とし、屋外用カバー付き防水型コンセントをブロワに近い建物の外壁に設けてください。
- ・ 機器の数に応じて電源を準備してください。
- ・ 電源の一次側には漏電遮断機（ELB）をつけてください。
- ・ アースが必要なブロワ・ポンプ・制御盤などの電気機器は、必ずアースを行ってください。



アースについて

- ・ アースはブロワのアース取り付けネジから取って行ってください。
- ・ 電源用コンセントにアース端子がついている場合はアース端子にアース線を接続してください。
- ・ アース端子がない場合は、アース工事を行ってください。（D 種接地工事）
- ・ ブロワ T I P 型はアース不要です。

3-8 スラブコンクリート工事

- ・ 埋め戻し工事が完了したらマンホールの周囲にコンクリートを打設します。
- ・ スラブコンクリートを打たない場合は、マンホール周りの水はけを良くし、整地してください。

4. 試運転

4-1 工事内容の確認

- ・ 全ての工事が適切に行われたかどうか確認してください。
- ・ 設置工事が完了したら p-9 の「施工チェックリスト」を活用し、工事の適正を確認してください。確認後は「施工チェックリスト」をお客様へお渡しください。

4-2 試運転

施工が完了したら試運転を行ってください。

（1）バルブの確認

槽内シールなどで各バルブの設定が正しいことを確認してください。

また、切替 BOX が付属する製品は必ず逆洗バルブ（赤色）を“開”にしてください。

逆洗バルブの設定	
HS II 型	通常時 “閉”
KXF 型	常時 “開”

（2）循環水量、移行水量の設定

循環水量、移行水量がおおむね下表の水量になっているか実測し調整してください。

■循環水量、移行水量

水量・調整方法 浄化槽型式	循環水量	揚水・移行・ 排出水量	調整方法・備考
HS II 型	3~4Q	—	循環調整器の四角せきを使い水位目安線に水面をあわせる
KXF 型	4Q	1.5Q※1	処理対象人員にバルブの目盛りをあわせる

Q=日平均汚水量 ※1 実際の水量は循環水量とあわせ 5.5Q

（３）切替BOX

切替BOXが付属する機種（KXF 型）は、切替BOXが正しく動作するか確認してください。

確認方法は切替 BOX に付属する取扱説明書、または維持管理要領書を参照してください。

クボタ合併処理浄化槽「施工チェックリスト」

検査項目	チェックの項目	欄
1.流入管渠および放流管渠の勾配	勾配は管径分の1以上とられているか、汚物や汚水の停滞がないか	
2.放流先の状況	放流口と放流水路の水位差が適切に保たれ、逆流のおそれはないか	
3.誤接合などの有無	生活排水が全て接続されているか	
	雨水や工場廃水などが浄化槽に流入していないか	
4.マスの位置及び種類	起点、屈曲点、合流点および直線部分については配管内径の120倍を超えない範囲で適切な升が設置されているか	
	流入系の升は全てインバート升になっているか	
	蓋は密閉型になっているか	
	2重トラップになっていないか	
5.流入管渠、放流管渠および空気配管の変形、破損のおそれ	管が露出していないか、又土かぶり不足による変形、破損のおそれはないか	
6.かさ上げの状況	かさ上げは30cm以内か	
	バルブ操作などの維持管理を容易に行うことができるか	
7.浄化槽本体上部およびその周辺の状況	保守点検、清掃が行える場所が確保されているか	
	保守点検、清掃の支障となるものが置かれていないか	
	浄化槽の上部にコンクリートスラブが打たれているか	
8.漏水の有無	漏水が生じていないか	
9.浄化槽本体の水平の状況	水平が保たれているか	
10.濾材・接触材・担体などの変形、破損、固定状況の確認	嫌気濾材および接触材に変形や破損はないか、しっかり固定されているか	
	浮上濾過槽、担体反応槽の担体に変形や破損はないか、他の槽へ移流していないか（KXF型、KXU型）	
11.ばっ気装置、逆洗装置、循環装置および定量移送装置の変形、破損、固定および稼働の状況	各装置に変形や破損はないか。しっかり固定されているか	
	空気の出方や水流に偏りはないか	
	バルブおよび調整器は正しく設定されているか	
12.消毒設備の変形、破損、固定状況の確認	消毒設備に変形や破損はないか	
	しっかり固定されているか	
	薬剤筒は傾いていないか	
13.ブロワの設置、稼働状況	D種(アース)接地工事が行われたか	
	電源の一次側に漏電遮断機(ELB)が付いているか	
	ブロワの足とコンクリートの基礎の間に隙間がないか、ブロワにがたつきはないか	
14.切替BOXの作動状況(KXF型)	現在時刻、逆洗開始時刻、各工程の運転時間が正しく設定されているか	
	正しく動作するか	
	配管の誤接合はないか	
上記の通り確認したことを証します。		
年 月 日 担当浄化槽設備士名 (浄化槽設備士免状の交付番号		印)

5. 特殊施工、オプション施工

5-1 深埋め工事

(1) 深埋めが 30cm 以下の場合

深埋めが 30cm 以下の場合、かさ上げ工事を行います。

かさ上げ工事には当社で用意しているマンホールアジャスタ（別売）を使用します。マンホールアジャスタは必要な高さにカットして使用します。

(2) 深埋めが 30cm を越える場合

原水ポンプ槽を設置して深埋めを 30cm 以下にします。

原水ポンプ槽の設置ができない場合はピット工事を行います。

ピット工事の例を右に示します。

土圧から槽を保護するために、浄化槽の周囲に擁壁を設けてください。

擁壁にかかる土圧、上部からの荷重などを十分に検討して仕様を決めてください。ピット内には水抜き用のドレンパイプを設けてください。

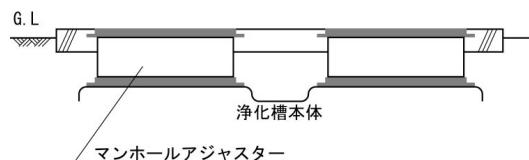


図 1 かさ上げ工事の例

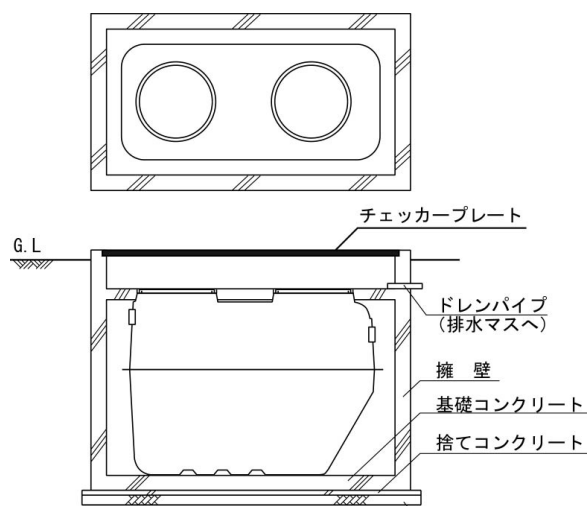
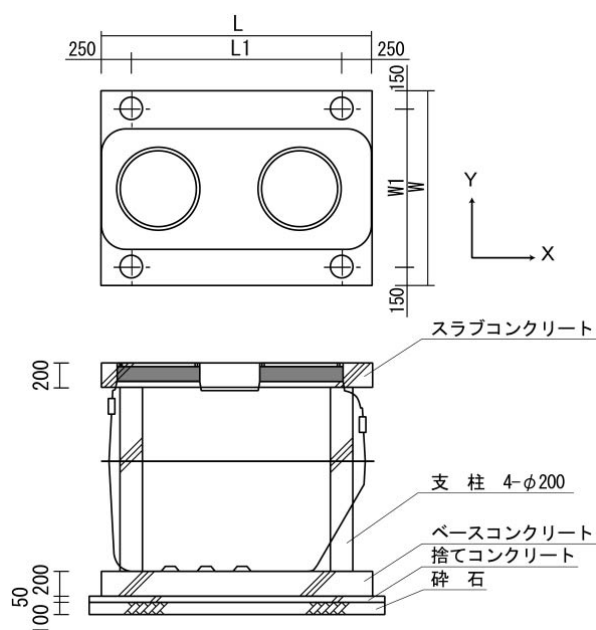


図 2 ピット工事の例

5-2 駐車場に設置する場合

HSⅡ型、KXF型を乗用車（総重量 2t 以下）の駐車場に設置する場合の施工例を以下に示します。下記以外の浄化槽ならびに総重量が 2t を越える場合は、弊社にお問い合わせください。

据付図<乗用車（総重量 2 t 以下）の場合の例>



◆寸法表

単位：mm

記号	HSⅡ型、KXF型		
	-5	-7	-10
W	1,760	1,940	2,160
L	2,500	2,950	3,630
W1	1,460	1,640	1,860
L1	2,000	2,450	3,130

◆マンホール蓋

乗用車用 (総重量 2 t 以下) FRP又はPP複合材	3t 車用 (総重量 6t 以下) FRP又は鋳鉄製	備 考
φ600-500K	φ600-1500K	マンホール蓋は標準で 500K が付いています。

◆配筋仕様＜乗用車（総重量 2 t 以下）の場合の例＞

配筋仕様		版厚・支柱径	
スラブ コンクリート	X方向	200mm	D13@200 ダブル
	Y方向		D13@200 ダブル
ベース コンクリート	X方向	200mm	D13@200 ダブル
	Y方向		D13@200 ダブル
支 柱	主筋	4-φ200	4-D13
	フープ		D10@200

5-3 水場に設置する場合

地下水の多い場所や地盤が軟弱な場合の掘削は、必ず法面崩壊防止のための適切な措置を行ってください。
地下水や湧水の多い地盤の掘削はかま場を設け、水中ポンプを用いて排水してください。

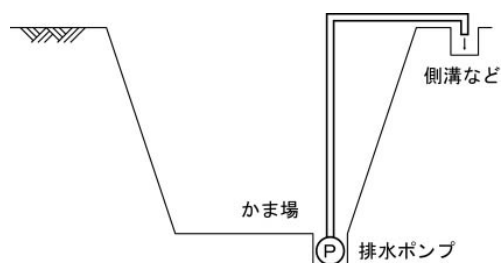


図 3 水替え工法

根巻きコンクリート、重しコンクリート

本体の槽底部又は上部をコンクリートで固めることにより槽の浮上を防止します。
その際スラブコンクリートを必ず打設します。

ベースコンクリートと本体を直結する

ベースコンクリート側

ベース筋にフックを設けるか金具を鉄筋に接続します。

本体側

フランジ部の吊り金具を逆に付け替えます。

接 続

ターンバックルなどで締結します。
スラブコンクリートを必ず設けてください。

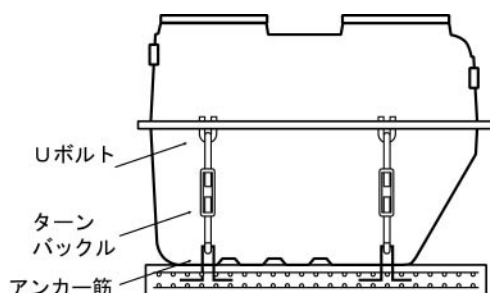


図 5 ベースコンクリートと本体を直結する例

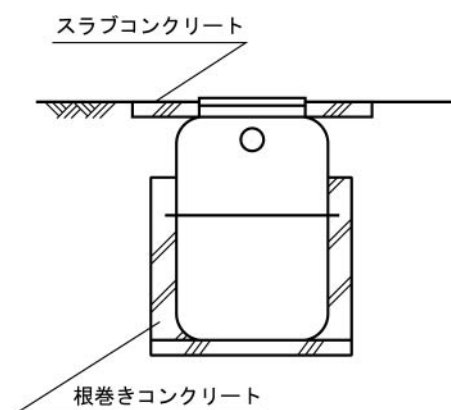


図 4 根巻きコンクリートの例

5-4 特殊な荷重がかかる場合

建築物の基礎、道路の際およびがけの下などは非常に大きな応力がかかっているため、原則として浄化槽の設置場所として不適当であり、やむを得ない場合にはこれらの応力を避けて計画してください。

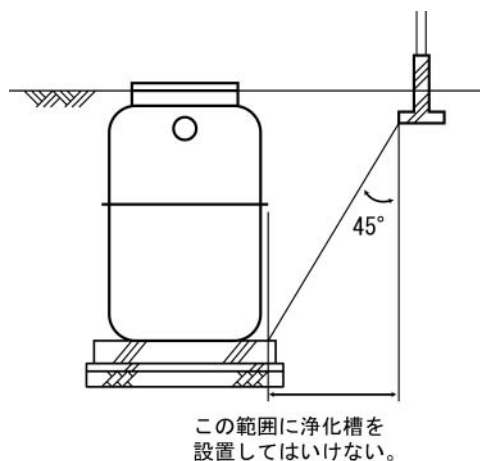


図 6 建物の基礎から離して設置する例

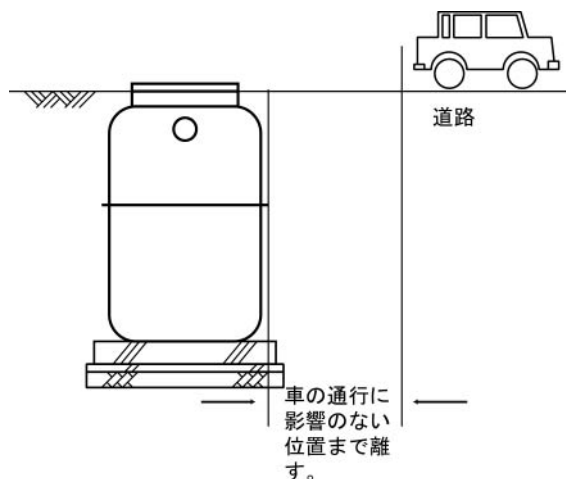


図 7 道路際から離して設置する例

敷地の関係などでやむを得ず設置する場合には鉄筋コンクリートの擁壁を設けてください。

コンクリート擁壁の施工仕様は構造計算によります。

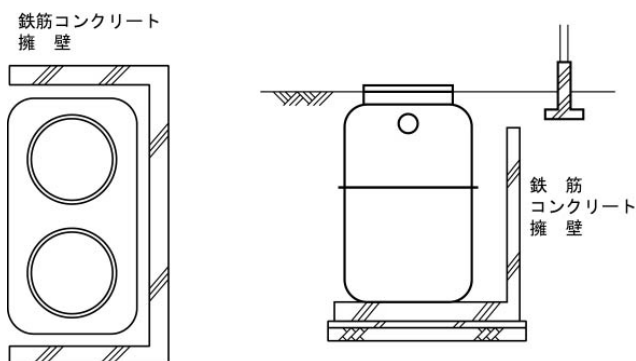


図 8 コンクリート擁壁の例

5-5 臭突配管工事

浄化槽は臭気を発生することがありますので臭突の設置をおすすめします。特に風通しの悪い場所（中庭、車庫等）、玄関先等臭気の気になる場所に設置する場合やポンプアップ放流の場合には必ず設置してください。

- ・ 臭突の立ち上げ位置は近所の建物の窓の位置を配慮して決めてください。
- ・ 横引き管はできるだけ短くし、浄化槽に向かって下り勾配になるようにしてください。
- ・ 立ち上げ高さは建物の軒下より 1 m 以上にしてください。
- ・ 立ち上げ管は風などで倒れないようにサポートを取り付けてください。
- ・ 臭突ファンは、換気風量がブロフ風量の 10 倍以上あるものを使用してください。

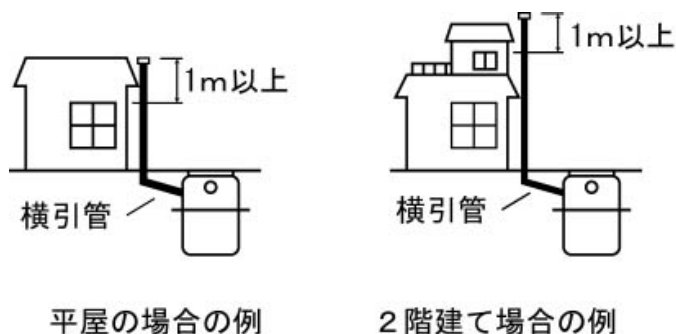


図9 臭突の設置例

5－6 寒冷地に設置する場合

寒冷地に設置する場合はその地域の凍結深度以下となるように本体を下げて設置してください。深埋めになる場合は「5－1 深埋め工事」を参照してください。
また、ピットの深さが50cm以上となる場合は浄化槽の周囲にも鉄筋コンクリート擁壁を設けてください。

5－7 ランドセル型排水ポンプ槽付き浄化槽を設置する場合

ランドセル型排水ポンプ槽付き浄化槽を設置する場合、以下のことに注意してください。

- ・ 槽を吊り上げるときは4点吊りとし、槽のバランスに十分注意してください。
- ・ 施工中にポンプ槽の上に載らないでください。
- ・ 水張りは必ず浄化槽側より行ってください。
- ・ 埋戻しはポンプ槽の底部に空隙ができないよう注意してください。
- ・ ポンプの設置、配管はポンプ槽に付属する説明書を参考に正しく施工してください。
- ・ 消毒剤の塩素ガスによる腐食を防ぐため配線用配管の出入り口は必ずコーキング処理を行ってください。
- ・ 通気対策として臭突を必ず設けてください。

排水ポンプ槽型式		1 型	
寸法	a (mm)	620	570
	b (mm)	810	
有効容量 (m ³)		0.059	
マンホール		φ450×1 枚	
放流管径		φ30 (呼び径)	
ポンプ仕様	台 数	2 台(自動交互運転、満水時 2 台同時運転)	
	口 径	32A	
	出力 (W)	150	
	ポンプ型式	CRB321ES	
対応浄化槽		HSⅡ-5,7 型 KXF-5,7 型	HSⅡ-10 型 KXF-10 型

上記の内容は仕様により異なる場合があります。
ポンプの取扱についてはポンプに付属の取扱説明書をご参照ください。

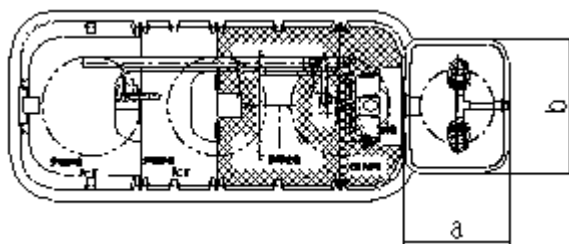
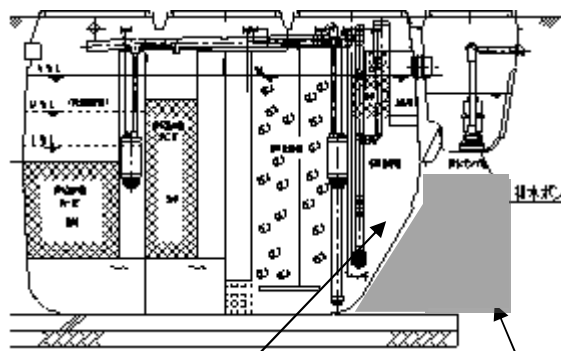


図10 平面図



水張りは必ず本槽側より行ってください
埋戻しの際、槽の底部まで十分土を充填してください

図11 埋め戻し時の注意

5ー8ランドセル型排水ポンプ槽付きを施工する場合の注意点

HSⅡ型、KXF型のポンプ槽組立要領は以下を参照ください。

※臭気の問題が起きないように臭突を設置してください。

(1)施工の際の注意事項

1. 据 付

槽の吊り上げの際はランドセル型排水ポンプ槽が本槽に付属していることを考慮し、重心に注意し作業を行ってください。

2. 水張り

水張りは安全に作業を行うため本槽側の水張りを行ってから排水ポンプ槽の水張りを行ってください。また、排水ポンプ槽の上に乗って作業を行うと、槽が転倒、破損するおそれがあります。埋め戻しが終わるまで排水ポンプ槽上部には乗らないでください。

3. 埋め戻し

埋め戻しは途中で何度も水を撒き、埋め戻し土の内部に空隙ができないよう念入りに行います。

特にランドセル型排水ポンプ槽の下部に空隙ができると施工後、陥没や槽の破損につながるので、確実に埋め戻しを行ってください。

(2)ポンプの取り付け方法（KXF(D)型、HSⅡ(D)型）

ポンプとポンプ配管は組付けられていませんので、埋め戻し完了後にポンプとポンプ配管を接続し、流出管に接着してください。

1. 配管の向きに注意してバルブソケットにシールテープを3回以上巻き、ポンプにねじ込み固定します。

2. 流出管に接着固定します（突き合わせ）

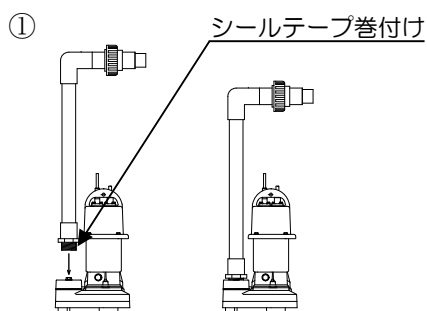


図12 配管方法取付図（断面）

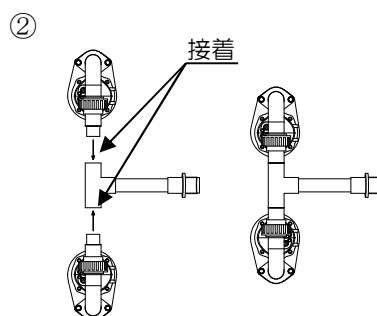


図13 配管方法取付図（平面）

※ポンプの運転方法につきましてはポンプに付属されている取扱説明書を参照ください。

(3) ポンプの起動・停止

自動交互運転	2台のポンプは交互に自動運転する。
同時運転	1台の排水能力以上に増水すれば、その異常水位を電極で検出し2台のポンプが同時運転する。
故障時の単独運転	片方のポンプが故障して排水不能になった場合、残る片方の正常なポンプが単独自動運転する。

(4) 臭気・通気対策について

臭気対策、通気対策として臭突管を設けるか通気配管を必ず行ってください。これらを行わないと臭気の発生及び消毒剤から発生する塩素ガスによる槽内機器類の腐食や建物内の台所の水洗金具および機器類の金属部を腐食させるおそれがあります。

—参考— 通気配管の取付

臭突管を設けられない場合、排水ポンプ槽に通気配管を設けてください。
通気配管の取付は排水ポンプ槽を流入側から見て左側面上部にφ50mmのキャップを取り付けているため、そのキャップを取り外し、配管してください。
取付部周辺はコーキング処理を行い、通気配管の解放先は雨水や側溝の水などが排水ポンプ槽へ逆流しない位置としてください。

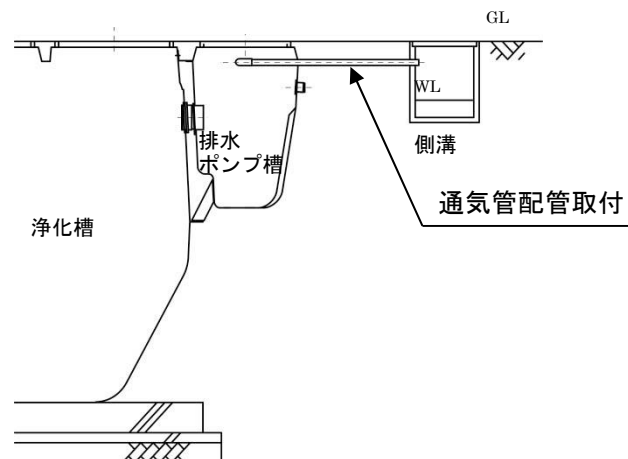


図14 通気配管の取付例

6. アフターサービスについて

6-1 保証期間と保証の範囲

1) 保証期間

槽本体：使用開始日より3カ年

ブロワ：使用開始日より1カ年

2) 保証の範囲

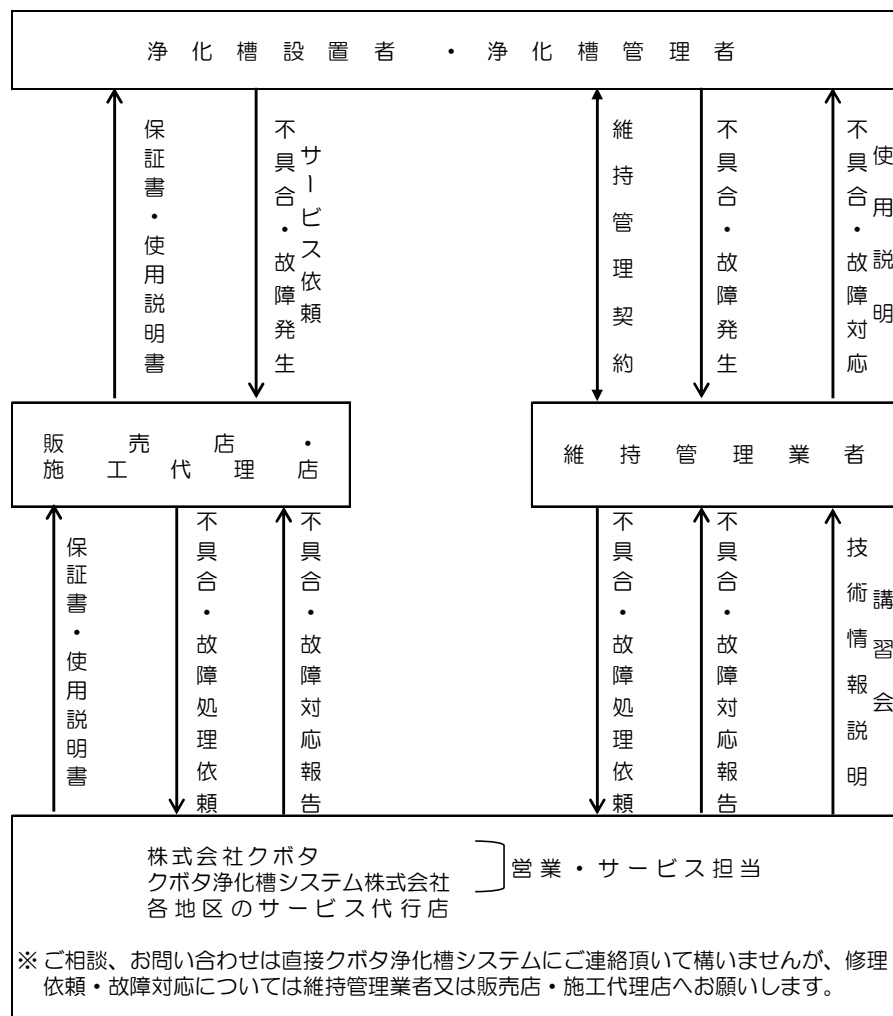
浄化槽法に基づく浄化槽工事業者によって適正に設置され、竣工検査を完了したものが、製造上の責任によって構造・機能に支障があると認められるときは無償にて修理します。

なお、離島及び離島に準ずる遠隔地への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。

また、次の場合は保証期間中であっても有償といたします。

- (1) 消耗部品（消毒剤、ブロワのダイヤフラム、弁など）
- (2) 使用上の誤りによる故障または損傷
- (3) 適切な維持管理をしていないとき
- (4) 適切な工事がなされていないとき
- (5) 改造や不適切な修理による故障または損傷
- (6) 駆動部の取付場所の移動などによる故障または損傷
- (7) 重車両の通行・振動による故障または破損
- (8) 火災、地震、水害、落雷、雪害その他天災地変による故障または損傷
- (9) 保証書のご提示のない場合（保証書は本資料に付属しています。）

6-2 保証体制



MEMO

MEMO

MEMO

支店・営業所 住所一覧表

クボタ 浄化槽システム株式会社

大阪営業所	〒661-8567	兵庫県尼崎市浜 1-1-1	TEL 06(6470)5301	FAX 06(6470)5302
東北営業所	〒980-0811	宮城県仙台市青葉区一番町 4-6-1	TEL 022(765)6410	FAX 022(778)0920
東日本支店	〒104-8307	東京都中央区京橋 2-1-3	TEL 03(3245)3708	FAX 03(3245)3720
九州・沖縄支店	〒812-0011	福岡市博多区博多駅前 3-2-8	TEL 092(473)2540	FAX 092(473)2581
東海近畿支店	〒450-0002	愛知県名古屋市中村区名駅 3-22-8	TEL 052(564)5121	FAX 052(564)5129
岡山営業所	〒710-0824	岡山県倉敷市白楽町 409	TEL 086(430)5927	FAX 086(430)1950
中四国支店	〒732-0057	広島市東区二葉の里 3-5-7	TEL 082(207)0648	FAX 082(207)0649
四国営業所	〒760-0050	香川県高松市亀井町 2-1	TEL 087(836)3916	FAX 087(836)3919
南九州営業所	〒891-0114	鹿児島市小松原 1-53-10	TEL 099(260)8710	FAX 099(260)8716
沖縄営業所	〒900-0016	沖縄県那覇市前島 3-1-15	TEL 098(862)1600	FAX 092(473)2581
海外営業部	〒104-8307	東京都中央区京橋 2-1-3	TEL 03(3245)3634	FAX 03(3245)3720

株式会社クボタ

滋賀工場 〒520-3211 滋賀県湖南市高松町 2-1

お問い合わせご相談は最寄りの営業窓口へ御連絡下さい。
【ホームページ URL : <https://www.kubota.co.jp/product/johkasou/> 】